

令和6(2024)年度栃木県アライグマ・ハクビシン防除実施計画モニタリング結果報告書(概要版)

1 総合評価

捕獲数について、アライグマは932頭と過去最多、ハクビシンは798頭と前年度より減少したものの高い水準であった。両種とも生息数・分布が増加・拡大傾向であり、特にアライグマは、捕獲数・捕獲効率が急激に上昇しておりハクビシンを上回る数値となっていた。

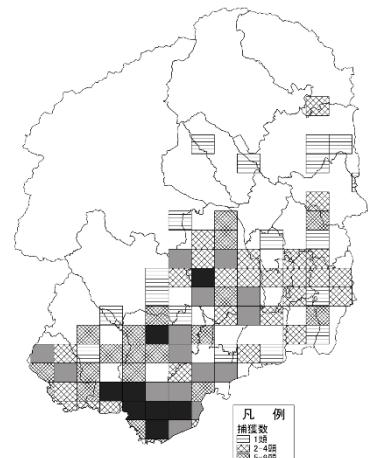
より一層捕獲を推進するため、市町における適切な止め刺し体制の整備を図るとともに、農作物被害等を防ぐため、被害防護や収穫残渣・生ゴミの処理等、捕獲以外の適切な対策についての普及啓発も図る必要がある。

2 調査の結果

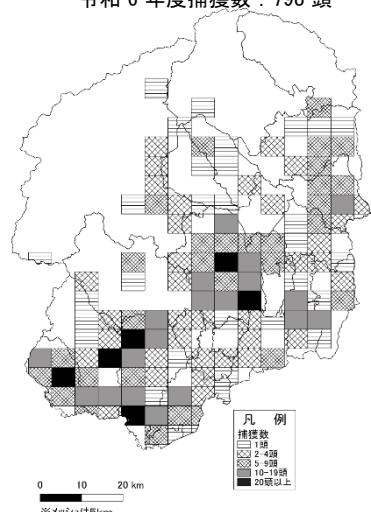
(1) 捕獲数と捕獲の分布

- アライグマの捕獲数は平成22年度以降横ばいだったが、令和元年度から急激に増加しており、令和6年度は932頭と過去最多となった（前年度比181%）。また、捕獲効率もハクビシンを上回る数値となっており、生息数の増加がうかがえる。
- ハクビシンの捕獲数は、798頭と前年度より増加し（前年度比130%）、平成27年度以降増加傾向にあり、捕獲効率も年々増加している。
- 両種ともに生息数・分布が増加・拡大傾向であった。

アライグマ捕獲分布
令和6年度捕獲数：932頭

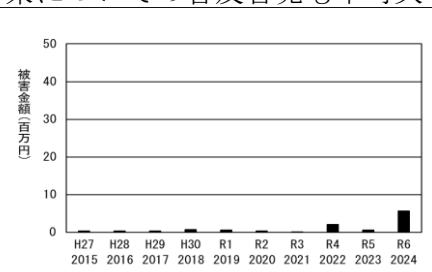


令和6年度捕獲数：798頭

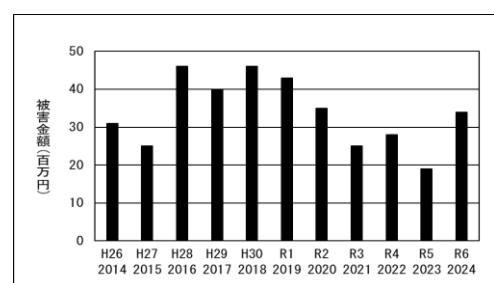


(2) 被害の発生状況とその対策

- 両種とも、果樹やいちご等の野菜類で被害が発生しており、令和6年度の農作物被害は、アライグマが約6百万円、ハクビシン約34百万円と、いずれも前年度より增加了。
- アライグマについては、捕獲数及び捕獲効率がハクビシンに近い数値となっているのに対し、農業被害報告は少ない状況であることから、アライグマ、ハクビシン、その他の中型哺乳類とで被害の区別がついていない可能性が考えられる。
- 被害対策としては、普及啓発及び捕獲の推進のため、平成27年度から市町の担当者や鳥獣管理士等に対して防除等研修会を開催しており、令和6年度は52名が参加した。
- 止め刺し用具の配備は25市町中、前年度の16市町から15市町に減少した。理由としては1市において、止め刺し用具を所有しているが、止め刺しの体制が整っていないことであった。今後さらに捕獲の推進を図る必要があることから、農業者等が捕獲した場合の止め刺しの負担軽減のため、市町において適切な方法で止め刺しを行える体制の整備をより一層推進していく必要がある。
- また、捕獲の推進と併せて、被害防護や収穫残渣・生ゴミの処理等、捕獲以外の適切な対策についての普及啓発も不可欠である。



アライグマによる被害金額の推移



ハクビシンによる被害金額の推移